

はくぶつかんネット

第42号

祝

たくさんのご来館
ありがとうございました

2011

9月~12月号

3回発行<5、9、2月>発行



発行:宜野湾市立博物館
 <TEL>098-870-9317
 <FAX>098-870-9316
 〒901-2224
 宜野湾市真志喜 1-25-1
 ホームページもチェック!

宜野湾市立博物館

検索



夏休み企画展「人類の足あと展」には、多くの方々にご見学して頂きました。おかげさまで「実際に化石人骨をみる事ができて良かった」「ほねほねスーツを着て、テレビに映し出された自分の姿を見ることができて良かった」「勉強になった」などという感想をたくさん頂きました。微力ながら、皆様の探究心を少しでも刺激できたことは大変嬉しく思っております。これからも、多くの方に喜んで頂けるような企画展を開催していきたいと思っております。

また、今回の企画展開催に際しましては、県立博物館、美術館の学芸主任・藤田祐樹先生をはじめとする多くの博物館の方にご協力を頂きました。この場をかりて、あつく御礼を申し上げます。



今回、ご覧いただけなかった方のために、ダイジェスト版を掲載します。また、ご見学していただいた方は、復習という気持ちで読んでいただければ幸いです(*^o^*)

“人類の足あと展” ダイジェストは、2P~4Pです

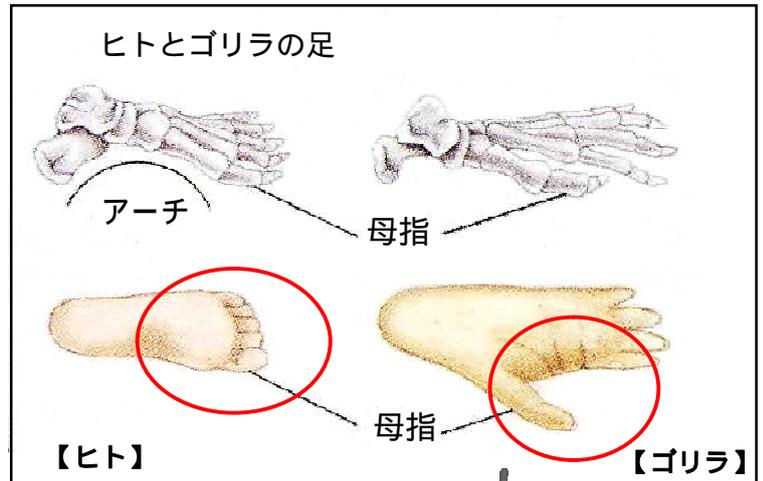


人類とは・・・！？

「人類」と断定する大きな要素は、2足歩行をしていたかどうかです。では、なぜ2足歩行をしていたかわかるのでしょうか。それは、足の骨を見ればわかります。ヒトは、二足歩行のために足が平らになっており、親指と他の指とは平行になっています。しかし、ゴリラ(類人猿)の足は樹上生活をしていたため握る構造をしており、親指と他の指が向かい合っているのです(図1)。

サルとヒトの共通の祖先!!!

「プロコンスル」。これが共通の祖先だと言われています。プロコンスルは、4本足で木の上で果物を食べて生活していたと考えられています。しかし!!歯に注目しますと、奥歯の表面の膨らんでいる部分が5つあり、これはチンパンジーなどの類人猿と人間だけが持つ特徴なのです。また、しっぽが無い事も、人間に近いサルだということを示しています。



(図1)



プロコンスル プロフィール

時代：約 2300 万年

~ 1500 万年前

分布：東アフリカ

脳容量：約 170 cc

体重：11kg ~ 76kg



そうだったんだ💡わたしたちの起源・・・

わたしたち新人は、どのように進化してきたのでしょうか。以前までは、100 万年以上にアフリカを旅立った原人たちが、ユーラシア大陸に広がり、それぞれの地域で原人 旧人 新人と進化してきたと考えられていまし

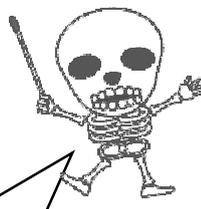
た(多地域進化説)。しかし、現在の研究で猿人から新人までのすべての人類は、アフリカで誕生したと考えられています(アフリカ単一起源説)。アフリカで誕生した新人が世界中に広がり、旧人とおきかわって、各地の現代人になったという説です。多くの研究者は、このアフリカ単一起源説を正しいと考えています。

驚き!! 脳の重さのヒミツ・・・

皆さんは、脳の重さはどのように変化してきていると思いますか? 進化するほどに、脳が大きくなってきたと思われる方も少なくないと思います。実際に、私もそのように思っていました。

しかし、実は 猿人 < 原人 < 新人 < 旧人 となっているのです。

- ・猿人：約 400ml
- ・原人：約 900ml
- ・旧人：約 1500 ~ 1700ml
- ・新人：約 1400ml



それぞれ、重さが全く違うね~



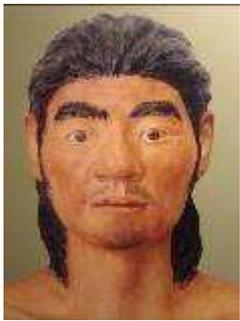
ペットボトルを脳と見立てて水を入れて下さい。それぞれ、どのように重さが違うのが実際に体験できます。今回の展示会では、このような体験コーナーを設けて皆さんに脳の重さを体験していただきました。旧人は重いですよ(。 ;)

日本はどうでしょう??

現在、日本で見つかった確実な人類の痕跡は、後期旧石器時代（旧石器時代とは、約300万年前から始まるといわれる時代で、石器のタイプにより前期・中期・後期に分けられます）以降のものしかありません。

人骨を例にとると、一番古い旧石器時代の化石人骨は、沖縄県那覇市山下町の山下町第一洞穴で発見された新人の化石人骨（約3万2000年前）です。日本本土に限ると、旧石器時代の化石人骨は静岡県浜北市の根堅洞窟から発見された浜北人だけであり、約1万8000年前です。

<縄文人：約12000年～約2500年前>



【縄文人系の特徴】

- ・身長が低い（150cm台）
- ・顔が短く、横幅が広い
- ・鼻が高く、ホリが深い
- ・目がパッチリ二重
- ・耳たぶが大きい

<弥生人：約2500年～1700年前>



【弥生人系の特徴】

- ・身長が高い（160cm以上）
- ・顔が長く、横幅が広い
- ・鼻が低く、ホリが浅い
- ・目が細く、耳たぶが小さい

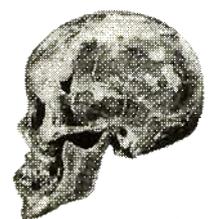
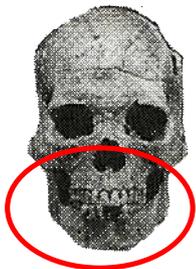
<中世人：約820年前～400年前>

日本全土の中世人の特徴として、頭を上から見た形が長く（長頭）顔は丸顔で鼻が低く、出っ歯（突顎）の傾向があります。

<江戸時代：約400年～140年前>

江戸時代の人々には、様々なタイプの顔が混じっていました。中世的な顔の人もいれば、現代人的に変化してきた人もいました。

さらに第3の顔として貴族型というものがあります。これは将軍家などに見られる形質で、頭を上から見た形が短く、顔の幅が狭くかつ長い顔を持ち、あごの発育が悪い、噛むための筋肉も弱いという特徴を持っています。



<貴族型>

- 右上：皇女和宮
- 左上：14代将軍家茂
- 左下：12代将軍家慶

鎌倉時代人（男性）

【出典：鈴木尚 1998：206
『骨が語る日本史』より】

【出典：鈴木尚 1998：208

『骨が語る日本史』より】

まだまだ...

沖縄の人たちはどこから来たのでしょうか…。この答えはまだ話し合いの段階で、はっきりした事はわかっていません。一方、日本本土ではある程度、説が固まってきています。それは、縄文人と弥生人の混血説です。沖縄の人たちのルーツが解明されるよう、皆さんも一緒に研究してみたいはいかがでしょうか！？

化石人類の宝庫、沖縄

1949（昭和24）年に群馬県岩宿^{いわしょく}で、日本初の旧石器時代の遺跡が発見された。これが契機となって、旧石器時代の遺跡に注目が集まり、全国各地で旧石器時代の遺跡の発見が相次いだ。

1960年代の前後に静岡県三ヶ日^{みっかびじん}人と浜北人、大分県で聖岳^{ひじりだけじん}人などの化石人骨が発見された。しかし、これらの人骨は断片的ですべてを合わせてもランドセルに入ってしまうほどしかなかった。しかも、特徴的な顔の部分は発見されてなく、詳しいことはわかっていない。

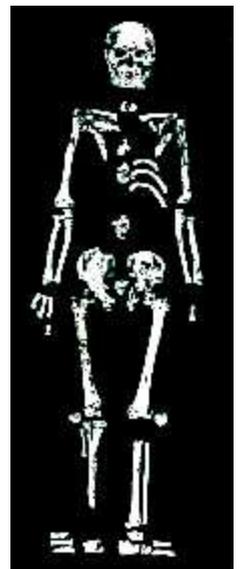
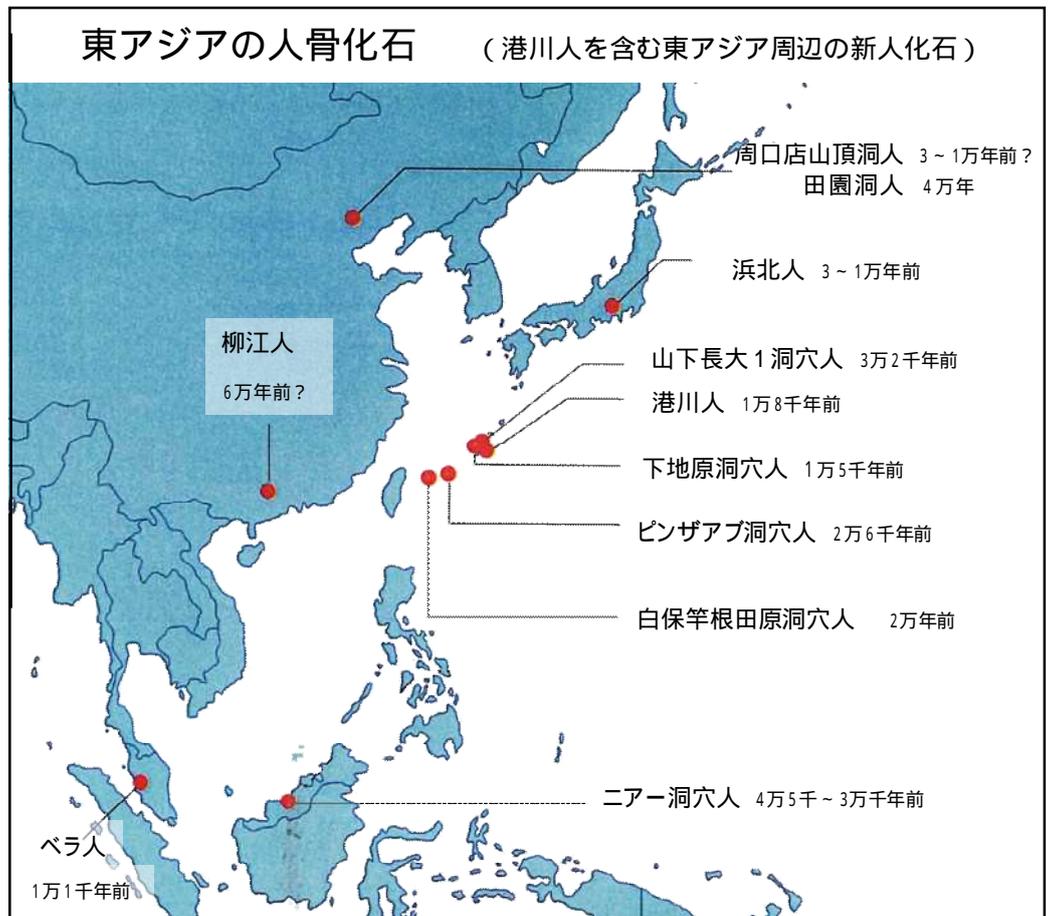
一方沖縄県でも1960年代前半に、宜野湾市大山洞人、北谷町桃原洞人、伊江村カダ原洞人が発見され、1960年代の後半には、那覇市山下洞人、具志頭村（現八重瀬町）港川人、宮古島上野村（現宮古島市）ピンザアブ人、久米島町下地洞穴人などが相次いで発見された。このため、沖縄県が日本の化石人類探索の中心として注目されることとなった。

しかも近年の研究によると、日本本土で発見されていた兵庫県の牛川^{うしかわ}人をはじめ、三ヶ日人、聖岳人などは旧石器人よりはるかに新しく、人間以外の骨であることなどが判明した。よって、沖縄県以外で発見された旧石器人は、唯一浜北人だけとなった。

2010（平成22）年2月、石垣市白保^{しらほ}竿根田原^{さねねたばら}洞穴遺跡において発見された人骨からコラーゲンを抽出して年代測定を行った結果、今から2万年前の人骨であることがわかった。直接、人骨から測定した年代としては日本最古であり注目を集めた。これまで旧石器時代の人骨が未発見であった八重山で発見されたことで、日本人の渡来経路などを考える上で大変重要な発見となった。

わが国で発見されている化石人骨で、世界的に最も注目を集めているのが、1968（昭和43）年に那覇市の実業家大山盛保氏によって発見された港川人である。港川人は、ほぼ全身骨格の1号人骨のほかにも、約9体分もの人骨が発見されており、旧石器時代の人骨がこれだけまとまって発見されたことは東アジアでも稀なことであり注目されている理由である。

九州以北の日本列島では、旧石器時代の地層は火山灰で覆われ、酸性土壌であるため人骨は残らない。しかし、沖縄県はアルカリ性の石灰岩で覆われているため化石化しやすく「化石の宝庫」と言われている。



港川人1号

皆さん、池上永一氏が書いた『テンペスト』という本をご存知ですか？『テンペスト』は舞台化されたり、ドラマ化されたり、更には旅行会社が主催するテンペストツアーまで登場するなど今や大人気の本です。この本は、琉球王朝末期の沖縄県を題材にした物語になっています。私も、大興奮しながら読んだ1冊になります。読みながらふと「そもそも琉球王国ってどんな国だったのだろう。私が住んでいる宜野湾市は、この時代どのような所だったのだろう」と思っていました。そんな折、宜野湾市立博物館で「琉球王国と宜野湾」という展示会が開催される事に決定しました！！内心わくわくしています。この展示会で、琉球王朝時代の「ぎのわん」について一緒に学んでみませんか！？展示会は11月2日～12月25日まで、11月まで待てない！！という方に、少しだけ「ぎのわん」についてお話を・・・



🔍 宜野湾間切の成立

[『宜野湾市史』第1巻通史編 第3章より]

宜野湾間切(間切:現在でいう市町村のこと)は、琉球王国が誕生した時からあるわけではないのです。実は、1671年に首里王府が意図的に作った間切なのです！！また、この時新設された間切は宜野湾だけでなく、宜野湾間切が設立される前後10年は、各地で間切の分割・統合が行われたようです。

宜野湾間切は、浦添間切から伊佐・嘉数・宜野湾・大謝名・大山・神山・我如古・喜友名・新城・宇地泊の10ヶ村(村:現在の字のこと)、中城間切から野嵩・普天間の2ヶ村、北谷間切から安仁屋の1ヶ村、新設の真志喜(大謝名から分割されたと考えられる)の1ヶ村の合計14ヶ村で新設されました。

宜野湾間切が新設された理由としては 国王尚質の第七王子尚弘善に土地を与えるため、大規模な浦添間切の土地を削ることで間切を治める両総地頭の勢力を抑えるためだという・・・。

その他、宜野湾間切のあれこれを知ることができます。

つづきは展示会にて・・・



琉球王国と 宜野湾



11月2日(水) ▶ 12月25日(日)

入場: 無料

AM 9時 ▶ PM 5時
(PM 4時半までの受付)

休館日: 火曜日、祝祭日(文化の日は除く)

< 関連講座 >

琉球王国と宜野湾(仮)

講師: 田名真之(沖縄国際大学教授)

日時: 11月20日(日)

14時~16時【予定】

琉球王国時代の道【野外見学会】

講師: 平敷兼哉(宜野湾市立博物館学芸担当主査)

日時: 12月4日(日)

10時~16時【予定】

別途、保険料がかかります。

